

千両 市川小團次 高島屋／米升

√なにをなされてもよい酒さかくせしん

きやうげんの新酒しんしゆ乃み口なだを

こへたるいつぼんぎ外ほかにるゐなし

しかし時代じだいのゑひかげん

ちとこまかすぎる所もござり升

六百両 尾上栄三郎 音羽屋／歌柳

√げいはもとよりおやゆづりさん

都とをふんだ左ひだりのたて者ものほんのり

目元かみがたのうつくしさしかし上方かみがたのこしゆ

ぎやうだけチトちよこまかと／なされます

七百両 片岡十蔵 松しまや／路猿

√ふだいつきのりつばは大がらだけ

たねんのこしゆぎやうでなんでも

たつしやにおつとめなざるゝが

うまみのないが一ツのくせでムリ升

九百五十両 市村家橋 橋屋／家橋

√当時とうじわか手てずあいちのきゝ物

時代じだいも世話わものみくちよゝへ

ひやうばん朝日あさひの昇のぼるがごとし

しかしもそつと大とりに願ねがひ升ぞ

五百両 中村桃三 成こまや／桃子

「ふたいはたつしや男はよし半道は
お手に入たものでうしのわるいと

安手なところはもちまへの泣

上戸なくて七くせアノまノヨ

八百両 市川九蔵 三芳屋／桃猿

「ちかごろめつきりより出され何

やくもひやうばんよくおひく／おほ

ものになられ升しかし余りさつ

ぱりでつやのないのがくせのうち

五百両 中村鷹八 舞づるや／三口

「まひづるやのばんとう下り目は

お持まへげいはますく／上り目で

又かはりめもへらるゝがりつばな

せきへはごてらであつう

七百両 中村現十郎 河内や／瓢楽

「ぜんにつよきはあへくにもつよし

と世のたとへにはいふなれども

たちやくよりはかたきが得もの

ぶきく／するがひとつのくせ

千両 坂東亀蔵 音羽屋／楽善

√老功のおうでまへぶたいのかるいは
べつぴんむるる世話ものはおにこ
かなぼう時代はをからのいへはしら
ろつばなきつけは／にあひませぬ

千両 中村芝翫 成こまや

√とうじじんき当時そつ人気の惣しんばざがしら所作は
もちろんなにげいもわるいとてん
のうちてのないまつたく
ひいきのうしろだても